

令和6年度

自己評価総括表

伊丹市立北保育所・園

保育目標 『生き生きとあそぶ子』 ①健康な子ども ②仲間と一緒に育つ子ども ③創造力豊かな子ども

項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自尊感情の構築	・乳児は週1回、幼児は月に3回程度、一人一人に視点を当てた話し合いを行い、『子どもの人権』を考え、一人の人間として尊重する気持ちをもって、保育にあたる。	・子どもの読み取りを乳児週1回、幼児月3回を目標としていたが、なかなか決まった時に行うことが出来なかった。次年度、回数などを課題とし検討していく。一方で、職員の関係が深まっていたことで、日々の遊びの話をする機会が増え、それぞれの個々の視点から話をしたり、互いの意見や考えを伝え合ったりすることが出来た。自己肯定感が感じられる保育への職員の意識が高まっている。 ・子どもの気持ちを十分に受け止めていくこと、子どもの考えや思いを否定しないことを重点に自己肯定感を感じられる保育を目指した。保育所の全職員（保育士、調理、用務）が意識をもって子どもと関わる姿勢を大切にしていき、さらに職員の連携・協力を深めていくことが課題とされる。
	資質・能力を育む保育の推進	・研修で学んだことを職員間で伝達したり掲示したりして、共有する。 ・月3回程度話し合う機会をもち、環境から子どもの姿を読みとり、今後の展開を考えて遊びを豊かにする。	・研修資料を参考に環境構成や、保育のヒントとして生かすことができた。 ・乳児は毎月末に職員間で、保育環境についての話し合いを行う。その中で環境の良かった点、実際の子どもの姿、改善すべき点などの視点から話し合い、環境の再構成を行い子どもたちの発達に合った保育環境を作っていくことができた。また幼児はウェブ図を活用し、それぞれの遊びの姿や広がり共有したり子どもの姿をチームで読み取ったりし子ども理解を深めてきた。それぞれの子どもの遊びや姿を読み取る中で、チームで連携を取りながら多様な環境構成を行うように努めた。これからも職員全体をチームと考え、子どもの姿を多様に捉えていきたい。
	ちがいを認め合える仲間づくり	・子どもの写真を用いた読み取りでは、一人一人の子どもの思い等、深いところまで掘り下げて読み取り人権意識を磨くようにする。 ・子どもだけでなく、職員同士の違いも認め合い、話し合いの時やお互いの気づきを共有する場では、肯定的に受け止めるようにする。 ・人権研修を1年に2回受け自分の中の人権意識を振り返り、保育の中で大切にすべきことを職員間で共有する。	・公開保育や毎月の環境作りの話し合い、子どもの読み取りなどで人権意識を磨いていった。 ・年2回の人権研修に意識を持って集うことができていた。そのなかで調理、用務も含めた人権研修として参加した。小グループで話し合いを持つことで活発な意見が出ていた。 ・仲間づくりとしての課題は、用務、調理、保育者のお互いの思いを共有していこうというひと声をもっと意識するというひと声を心がけていけたらさらに仲間づくりの意識が高まると感じる。
	健やかな体の育成	・保育の中で栽培活動や収穫物を使ったクッキングを実施したり、給食の献立や旬の食材を掲示したりするなど食に興味を持てるように年齢に応じた食育を行う。 ・子ども達が伸び伸びと体を動かして遊べる環境を設定する。	・実際に園庭で野菜や稲を栽培、水やり、収穫、調理することで食べ物のありがたさを感じることができていた。カレー作りやさつま汁、夏野菜クッキングなど調理師と連携を取り合うことで収穫した作物を目の前で調理して食し、五感を通した食育が実現できた。また近隣のスーパーに子どもたちが買い物に行き、旬の食材を実際に見たり触れたりすることで興味関心が深まった。今後も保育者と調理師と共に食育計画を進めていきたい。 ・園庭に穴や築山を意識して作ることで走るときも自分たちなりに速度を加減したり、よく見て走ったりするようになった。石、板、タイヤ、など子どもたちが遊びに合わせて自在に扱える素材が出ていることは学びにつながっているが破損などで危険のないようにこまめな点検も必要である。 ・雨天時も広い場所を確保し、体を動かせるような環境を設定しておくことでからだを十分動かして遊んでいる。乳幼児期に体を十分動かして遊ぶことの重要性を理解し取り組んでいきたい。

保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	・講師を招いた、園内研修を年1回行う。 ・写真での子どもの姿の読み取りを月3回(幼児)、月1回(乳児)、また、月1回室内の環境構成について話し合い(乳児)を行い、環境構成や保育への展開に活かす。 ・円内外での研修に積極的に参加できるように調整し、研修で学んだことを園内で伝えあえるように資料の掲示や伝達を行う。	・園内研修では子ども一人一人が興味のある遊びを追求できる環境があると講師の先生に言うていただくことができた。幼児、乳児共に写真を読み取ることで、子どもの興味が今どこにあるのか、環境をどうしていく必要があるのかを職員同士で深く話し合うことができた。 - 他園の園内研修に参加した際には、写真を回覧し自園にも取り入れられるところは取り入れていった。
	チーム保育の推進	・クラスの枠を超え連携をとれるよう、クラスを超えてチームで子どもの姿を読み取りを月3回(幼児)、週1回(乳児)、また、月1回クラスの枠を超えて環境の話し合いを行う。一人一人が意見しやすいような雰囲気の中で語り合う場を作っていく。	・職員の年齢層が多様であるので、意見しづらい雰囲気があったため、まず、保育の事ばかりでなく、何気ない会話をする時間を取り、話しやすい雰囲気を作ることにした。そうすることにより、会話をする機会が増え、乳幼児共に週1回程度のクラスの枠を超え、保育の話をしやすい雰囲気を作ることができ良かった。調理や用務なども含めて職務の枠を超え、互いに子どもを見合う関係ができており、子ども達も安心して過ごすことができている。また職員が他クラスの子を見守ることで、子どもも異年齢児同士で声をかける事に繋がってきている。これからも担当職員や担任、他職員も共に子どもを見守っていくスタンスを保っていくことを大切にしていきたい。
開かれ信頼される園づくり	園情報の発信	・保育システムを利用して、保育所の中で大切にしていること等、保育の可視化と同時に伝える。 ・ホームページに給食献立の人気レシピや園での子どもの姿を載せることで保育所生活を保護者だけでなく地域の方や学校関係者等にも知ってもらう機会を作る。	・少しずつ保育システムに慣れてきて、子どもの姿、遊びの様子を保護者に知ってもらえるように、お知らせ機能を使い、ドキュメンテーションやお便りを配信して伝えている。 ・ホームページにも子どもの様子や給食の献立などを載せて、地域の方や学校関係者等にも知ってもらうようにしているが、ホームページの更新の頻度が少ないので、もう少し多くしていきたい。
	小学校教育との接続	・就学前の引継ぎとして、小学校に園内研修の案内や保育所の取り組みをドキュメンテーションにして送り、保育所での様子を積極的に知らせていく。 ・接続期の研修に積極的に参加し意識して小学校職員との交流を試みる。 ・オープンスクールに職員が参加したり、子どもたちが小学校にヤゴ取り、土取り、風揚げ等に行き小学校の環境を知る機会を持つ。	・小学校に園内研修の案内や保育所の取り組みをドキュメンテーションで送った。実際に小学校の校長先生に行事を観て頂く機会をもてた。来年度も続けていきたい。 ・接続期の研修に参加し、小学校職員と話す機会をもつことができた。だが回数は多くないため、少しずつ増やしていけたらよいと考える。 ・5歳児が小学校にヤゴ取りに行ったり、小学校内を探索し自然物拾いをしたりして、小学校の環境を詳しく知る機会をもてた。だが1つの小学校にしか行けなかったため、来年度は違う小学校にも行く機会をもてるようにしていきたい。
	地域交流 子育て支援	・ホームページや玄関先掲示等で園庭開放を知らせ、1ヶ月に1組以上の親子が保育所の園庭開放を利用する。園庭開放に訪れた時には積極的に声を掛ける。 ・造園所や商店街、図書館等保育の中で施設を利用し意識して地域とつながっていく。	・幼児（特に5歳児）を中心にことば蔵へ調べものに行ったり、相撲稽古の見学に行ったりする機会を設けられた。地域交流していることを、乳児の職員は知らないことが多かったので、園全体として把握していけるようになっていきたい。 ・暖かい時期には、園庭開放に来られる人もいたが、寒くなると来なくなっていた。乳児は、園庭開放に来た子と関わって遊ぶ姿があった。保育見学に来られる人の中で、ホームページを見られている人も多くいたので、園庭開放のお知らせを年度初めだけでなく、定期的に行ったり、様子をホームページで知らせたり、地域の保護者が抱えている不安などを園庭開放の際に保育者が相談に乗れるということを発信し、地域の子育て支援に繋がったりと今後も取り組んでいきたい。